Ⅱ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する学会などの対応

1. COVID-19に対する 胸部CT検査指針の策定

氏田万寿夫 立川綜合病院放射線科

日本放射線科専門医会・医会(以下, JCR) では、わが国で新型コロナウイルス 感染症 (以下、COVID-19) の拡大の兆し を見せ始めた2020年2月から、この未知 の感染症に関する知見や放射線科診療に 関連する提言をホームページ上で発信し てきた。その頃、立て続けに発表された多 くの論文によって、COVID-19の特徴的 画像所見(特にCT所見)が確立しつつあっ た。その中で、2月19日にRadiology誌 にCOVID-19の診断でCTがPCR検査 より感度が高いという論文1)が登場したこ とで、「COVID-19のスクリーニングにCT が有用 | 「COVID-19疑いにはCT | との社 会通念が生まれることが危惧された。なぜ なら、COVID-19の診断にCTの感度は高 いが特異性に乏しいこと、CTで異常を認 めない COVID-19 患者も存在することに 加え、CT検査の適応を無為に広げること は、通常の放射線診療に支障を来すだけ でなく、より重要な点として感染拡大の 一因になりうると考えたからである。

このような背景から、JCR、日本医学放射線学会および感染症関連の2学会(日本感染症学会、日本環境感染症学会)との合同による「COVID-19に対する胸部CT検査の指針(Ver1.0)」を策定した。作成は、長崎大学の芦澤和人先生(JCR)が作成した原案を基に、JCRと各学会の専門家の計9名により3月初旬からリモートで議論を重ね、4月23日に指針を発表した。

この指針発表前の3月11日には、米国 放射線学会 (ACR) から COVID-19 が疑 われる患者に対する画像診断ガイドライ ンが公表されたが、無症状の患者への画像検査の適応はないと同様の声明を発している²⁾。

以下に、本指針の全文を記載するが、ここに記載されているように、本指針は地域の感染状況や各施設のCTの活用状況などにより、柔軟に運用することが望まれる。また今後、感染状況などに応じて改訂する可能性もありうる。

COVID-19 に対する胸部 CT検査の指針 (Ver.1.0)

はじめに

胸部CT検査の適応に関しては、①疾 患に対するCTの診断能、②検査室の 感染拡散の問題、③ X 線被ばくのデメ リット、④地域の感染状況の4点を考慮して総合的に判断することが重要である。なお、国内のCOVID-19の状況は刻々と変化しており、本指針は、地域の感染状況や各施設のCTの活用状況により、柔軟に運用することが望まれる。

Q1. CT 検査における注意点は?

A1-1. CT検査室での感染対策が 必須である。

患者には必ずサージカルマスクを着用させる。医療スタッフはアイシールドつきサージカルマスク(ゴーグル+サージカルマスクでも可)、キャップ、長袖ガウン、手袋を着用する(図1)。濃厚接触が想定される場合(造影剤の使用や介助が必要な場合など)はN95マスクの使用も検討する。施行後は、次の患者

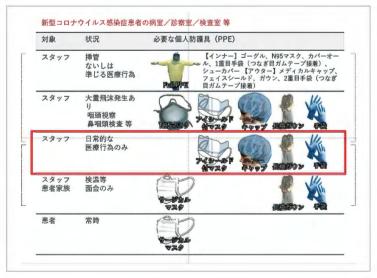


図1 長崎大学病院感染制御センターの COVID-19 対応マニュアルより引用